

◆ 高山れおな選

久々の白Tシャツも須臾に汗

(藤沢市) 朝広三猫子

初蟬の最晩年を鳴いてをり

(東かがわ市) 桑島 正樹

草引いて大海原にある心地

(堺市) 吉田 敦子

物思ふ時には止まり団扇の手

(厚木市) 吉行 奎子

炎昼の路上に靴のかかとかな

(市川市) をがはまなぶ

老け役の力使はず夏芝居

(川越市) 佐藤 俊春

アロハシャツ風の仲間となりにけり

(伊丹市) 保理江順子

浮御堂けぶりたちまち大夕立

(豊中市) 迫田斗未子

突然に雲の峰より着陸機

(大村市) 小谷 一夫

隠り世の入り口と見ゆ蜚の夜

(千葉市) 團野 耕一

【評】朝広さん。「須臾に」は「一瞬で」。事実としてもだが、句の言葉に速度感があるのがいい。桑島さん。蟬が地上に出るのは生涯の最後の最後。その蟬も減っている印象…。吉田さん。終わらない草取り。言い回しはロマンチックだけど。

◆ 小林 貴子 選

雨上がり瀧の叫びを浴びる朝

(大阪府島本町) 片山 直子

夏蝶の倒れぬやうに歩きけり

(横浜市) 山田 知明

電柱の影もうれしい炎天下

(神奈川県二宮町) 塙 昌子

電線のゆあんとゆがむ八月来

(始良市) 榊 秀樹

東野圭吾みづから行くや「白夜行」

(川崎市) 井上 鷹也

もういい加減にしなさい水遊び

(太田市) 渋谷 今美

球体は並べて平面てふ花火

(玉野市) 勝村 博

憎きかな哭く蟬啞へ飛ぶ鳥

(札幌市) 長谷川淑子

無精して妻への供花水中花

(尼崎市) 田中 節夫

国旗より大事な命敗戦忌

(札幌市) 渡辺 健一

【評】一句目、雨の後、瀧は勢いを増す。「叫び」から恐ろしさが伝わる。二句目、蝶の歩くのを見ると、羽が左右どちらかに倒れそうで心配。三句目、信号待ちの間も電柱の影に入っていようと思う。四句目、中原中也の「サーカス」を想起。